

羊我鑑
疏骨法術

位取

自然之構

自然之構は別名「平之構」、「自然体」ともいう。

肩に力を入れず、目線真つ直ぐに、手は自然に前横に垂らす。右足を前に出せば、「右自然之構」といい、左足を前に出せば、「左自然之構」という。

一文字之構

両足揃えた自然体より、右足を飛鳥の如く上げながら右に開き、両肘曲げて回天之構の如き形から両手を左右に広げ「平一文字之構」となる。勿心う変化して、左手前、右足後ろ、右手左肩

切紙之型

飛倒

相手方左手にて我が右手首を捕り引かんとする。我れ一寸腰を落し我が後方に左足より一歩退く。相手方止むを得ずついて来る。三歩後方に引き退く。三歩目に引き退く如く見せて相手方に付け入る。我が右足が相手方の左横より後方に飛び込み、左足をなぐ後方に坐し、右手地にさうて引く。相手方前方に仰向けに倒れる。飛びこお時、気合。残心。

前日に位取りの「片手」文字之構」となる。

四天之構

足を強く割って、左足より腰を落とし、両手広げ、上に引き退く。

破竹之構

左手開き前方、右手拳にて腰に位取り。これより左足前に屈せ腰落し、右手拳にて頭上に構える変化あり。

左掙倒

前技と同様、相手方左手片胸捕り、右廻りの事。

世蔭倒

相手方後方より来り我が首筋襟を右手にて掴み、引キ倒さんとす。
我れ腰を落し、四天の構にて後方に斜曲向く。相手方引くこと一歩、
二歩、我れこれについてさがる。三度目に遂に我れ力強く引く。相手
方なお強引に引かんぞ。此の呼吸、忽ち飛び込んで左足坐し、
右足立て、両手つゝ。相手方仰向けに倒れる。

左飛倒

相手方右手にて我が左手首を捕る。前と同じ呼吸にて相手方左横
後方に飛び込み、坐し、倒す。

掙倒

相手方右手にて我が片胸捕る。我れ腰を落し、四天の構にて後方に
退く事三歩。三歩目に右足引いて（相手の足の前方に動かんとする
呼吸に）、実は右足引く如くしくクルリと廻って（相手方の右手
下方に我が首を入れて廻り）体を沈めて（左足坐し、右足立て、充
分腰を低め、両手を地に付く）投げ。

断倒

相手方両胸を両手にて捕る。我れ寸体を引き。忽ち変化して我が面部にて相手の顔面に打ちつけるのと、右足脛にて相手の下段を蹴上げるると同時一致の事。

左断倒

前と同じくして、左技の事。

此処までは切紙許と言う。

左蔭倒

前と同じく、左技のこと。

足鼓

相手方両胸を両手にて捕り締めん。我れ破竹の構にて、忽ち変化して右足にて相手の左腹部を蹴り、同時に右横に二間程飛び、元の破竹の構にて残心。相手方は仰向けに倒れる。

左足鼓

前と同じくして、左技の事。

相手方再び左拳にて突き来る。我れ右足引き体を変わし左拇指拳にて相手の胸星（心減）に突き込み倒し、残心。

上捲投

相手方後ろより来り、我が後ろ首筋を掴まんとす。忽ち我れ左足引き坐して、右角（拇指）にて相手の五輪に打ち込み、前に向きかえりて残心。

拙倒

相手方右拳にて打ち来る。我れ左拳にて左破竹の構から変化して受け流し、右手角（拇指）にて表鬼門にて打ち込み、退がって残心。

切紙之型

抑打

相手方と三尺隔てて対立。相手方右拳にて我が面部を打ち来る。我れ一文字の構にて左手拳に変化して相手の右拳を左へ撥ねかえし、忽ち右足踏み込んで右手手刀に変化して雨霞返しに打ち込み、残心。

抗蹴

相手方右拳にて突き来る。我れ回天の構にて左足一歩引き相手の拳を変わし、忽ち我れ右手手刀に変化し相手の腕弱筋を打つ。

抜倒

相手方片胸を捕る為には右手出し来る。我れ破竹の構にて忽ち右手
刀にて相手の手首裏を打ち破り、忽ち左手解虫手にて右禁左禁に
打ち込み残心。

折拍

相手方両手拳打ち来る。我れ一文字の構より一度右足後方に引き、
その反動にて再び右足相手の下段に蹴込み、同時に右手刀にて相
手の夕霞に打ち込み、残心。

捕拵

相手方左手にて我れ片胸掴み、右手拳にて打ち来る。我れ四天の構より
左拳にて受け、右手拇指にて声に当込み、同時に我が面部にて相手の
顔面に打ちつけ倒し、残心。

放擲

相手方左手にて片胸捕り、右拳にて打ち来る。我れ四天の構より左手
刀にて相手の右手を星を撥ね上げ、右手にて相手の左手星に拇指
を当て掴みて上部に押上げ、右腰入れて投げ、残心。

指搦

相手方両手拳にて打ち来る。我れ破竹の構にて相手の右拳を左手拳にて受け、忽ち左手三指にて一当三當時の當りに突き入れ、同時に右手刀にて左霞を打ち、残心。

拒波

相手方両手拳にて打ち来る。我れ破竹の構にて両手にて撥ね受け、右足にて相手の左足を蹴返し、両手拇指拳(角)にて一度に両雨戸に打ち込み、残心。

指倒

相手方前と同時にく両手拳来る。我れ一文字の構より忽ち右足後方に大きく退がると同時に其の反動にて右足相手の下段に蹴込み、とするは虚にして実は右手角(拇指拳)にて相手の陰に当て込み、残心。

拒技

相手方両手拳打ち来る。我れ四天の構にて右足後方に一歩退がると同時に右足再び踏み込んで相手の左足時の急所を踏み付け、同時に右手拇指拳にて相手の左陰に当込み、残心。

飛び上がる受持ちにて前宙返りする。

骨法術の手刀は、拳から開いた時に打ち込めこと、また受けは、開いた手が拳に変わった時そのはずみで受けること肝心也。

武道とは先手を出さない。武道に先手なしと云う程にて、よくよく修練のこと大事なり。

武道に依らず、人間、社会的活動に奇跡的な事は無理が生じる。必ず正しい判断力を以て実行に移さねばならぬ。この正しい判断力を身に付けるには、正しい精神が必要である。人間誰でも、正しい精神の反面には、

括倒

相手方両手拳にく打ち来る。我れ破竹の構より右足後方に引き、体だけ前方に進み、左手突き出すは虚にして、実は右足にて木目を蹴込み、同時に右手五指にて相手の顔面右禁左禁等一度に当て込み、残心。

以上、表型十三本、左技を取り込んで計二十六本を初傳型とす。型は形也と雖も、骨法術は呼吸と構とが受け身の宙返り練習が大事である。宙返りせんとする心構えは、初め破竹の構にて三尺上に

迷妄即ち心の迷いが放れない。これを克服し、自信を以て実行に移せるようになるなければならぬ。